

●コンデンスミルクの祖●

花島兵右衛門



花島兵右衛門翁

歴史に残る人物に共通するのは、かれらが活躍した場所が地方か中央であるかにかかわらず、かれらは時代の後追いをして生きず、自分の才能・力・人間性などを発揮して時代の先頭を個性的に生き抜き、一つ、固有の時代を創り上げてしまう点である。

本企画展の主人公である花島兵右衛門は、三島という地域の明治・大正時代を近代三島の旗手として人々の先頭に立ち、多くの影響を与えながら実に生き生きと多彩に生き、その後の三島近代化史の柱を打ち立てた人物である。

幕末、酒造業を営む旧家に生まれ、多感な青年期に明治維新となり、間もなくキリスト教と出会う。これに大きな影響を受け、以後、女学校開設、牧畜業、練乳製造業などの教育活動や事業に精を出し、さらに三島銀行の創立、伊豆鉄道の発起設立といった事業を起こし、後の三島町の発展にも寄与している。

展示では兵右衛門の生涯を追いながら、合わせて、彼が生きた明治・大正の世相をも概観してみた。

財界活動

「株式会社三島銀行」の所在地は「久保町^{はらいど}萩所角」、現在の中央町で、三嶋大社西側の浦島神社方面への曲がり角。明治29年発行『三島雑記』に、同銀行についての記事が次のように載っている。

「明治27年10月の起業にして、操業^{いまま}日未た浅しといへども、基礎強固七万円の資本を以て、三嶋地方経済界の運転手たり、現在積立金千三百五拾円にして利益の配当一年九朱の割合なり、現今に於ける概況左の如し」とあり、左記には「株数七百株、一株金百円、営業種目は貸付金・諸預金・諸為金・その他銀行営業一般」三島銀行の頭取は創業者花島兵右衛門。役員は取締役兼支配人の河辺喜右衛門。花島家も河辺家も、同じ久保町の大きな商家だった。

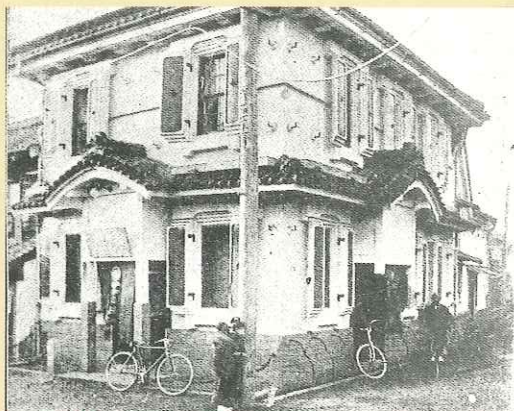
このほかに、花島兵右衛門の財界における事業には、伊豆鉄道株式会社(後に伊豆箱根鉄道になる)の発起創立がある。三島銀行は、このような花島兵右衛門の財界活動を支える基盤であり、「看板」は当時の活躍の象徴だったと言えよう。



■「株式会社三島銀行」の看板

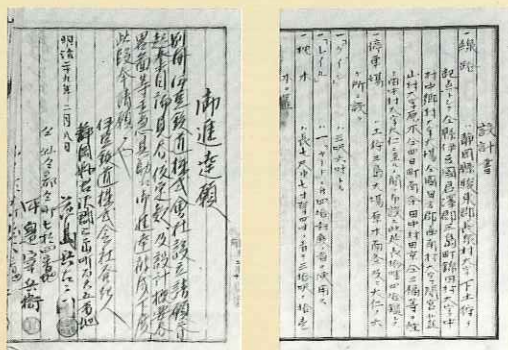
兵右衛門は明治27年三島銀行を創立、頭取として活躍した。(大正12年解散)

この資金力をバックに練乳事業をはじめ伊豆鉄道等、各種事業の振興に力を入れた。



■株式会社三島銀行

久保町^{はらいど}萩所角(現在の中央町)に在った。後に、伊豆銀行と合併する。



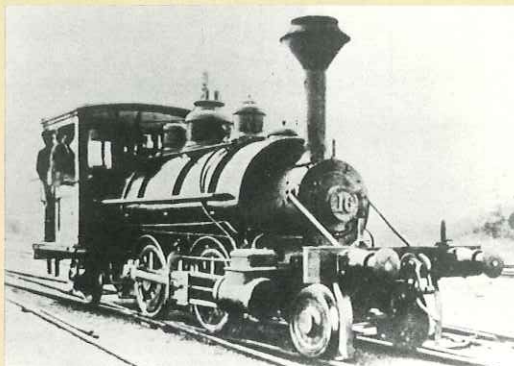
■伊豆鉄道株式会社設立請願の「御進達願」(左)と「設計書」(右)

伊豆鉄道と豆相鉄道

明治22年東海道線の開通(御殿場経由)以来三島の衰退は激しく、三島・北伊豆再興のためにも鉄道敷設は住民の悲願であった。

豆相鉄道株式会社(東京資本)は鉄道の認可を受け、31年に開業した。(現在の下土狩ー伊豆長岡)

この豆相鉄道の協力会社として兵右衛門が中心となり設立したのが伊豆鉄道株式会社である。豆相鉄道は経営状態が悪く、36年に伊豆鉄道に譲渡された。変遷の後、現在の伊豆箱根鉄道となる。



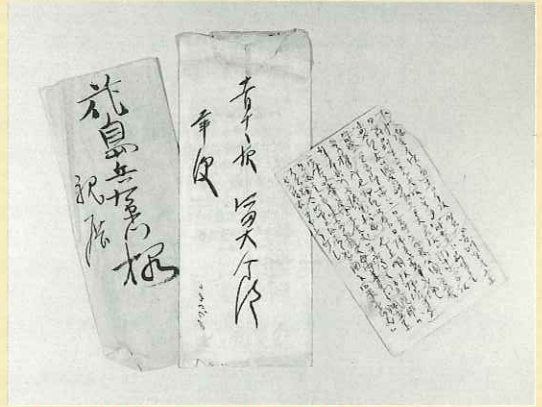
■「豆相鉄道」の機関車

俗にそろばん玉と称されたという。写真は明治33年頃。



■ 薔花（バラ）女学校開校式（明治21年6月）

兵右衛門が校主となり自家の酒倉を改造して創立した県下初のキリスト教主義女学校。三島へ欧風文化をもたらし啓蒙的役割をはたした。



■ 仁田大八郎の兵右衛門宛書簡

東京帝大農科出身の仁田大八郎（田方農林学校の設立者）とは才塚に共同の種牛場を開いた。



■ 竹林寺小路 花島邸

門前の髭の老人は花島翁。牛乳缶が見える。左手奥に薔花（バラ）女学校・練乳工場の建物があった。



■ 練乳製造のための真空鍋

練乳（コンデンスミルク）製法の研究を重ねた兵右衛門は明治29年米国より真空鍋を購入、養子轡吉と協力し、新式練乳製法に成功した。



■ 「金線牌練乳」ラベル
さんし（金鶏ミルク）

明治末～大正にかけて花島練乳（後に極東練乳）のコンデンスミルクは国内市場を席卷し、海外にも輸出された。

キリスト教と教育・事業

明治19年、キリスト教への入信が兵右衛門の生涯を方向づけた。創立間もない三島教会で一家7人に洗礼を受けさせ、家業の酒造業を廃し、酒倉を礼拝堂に改造するという思いきった転身を図った後、矢継早に、さまざまな事業に私財を投じている。改造した酒倉の二階にキリスト教女学校を設立。「豊牧舎」という牧場を開き、牛乳販売所を創設。続いて「花島練乳所」を起こし、練乳（コンデンスミルク）の製造を始めている。キリスト教に感銘を受け、その精神に基づいた動向とはいえ、これらの事業は県下は勿論、全国的にも極めて早い創業であり、三島のような一地方では異例、異質な事業だった。

こうした背景には、兵右衛門が維新後の近代化風を追風にしたことも考えられるが、それ以上に彼の先見の明と勇氣ある決断があったからこそと言えるであろう。解禁直後のキリスト教はもとより、牛の乳を飲むような習慣も、日本には定着した生活様式ではなかった時代のことである。

■三嶋大社前説教風景

明治に入りキリスト教禁止令が解かれると三島でも布教活動が盛んに行われた。

旧家の小出・花島両家の入信の頃より、キリスト教が受け入れられるようになった。



■ジェームス・バラ博士

明治8年、三島に始めてキリスト教（新教）を布教した宣教師。16年には三島教会を設立し、兵右衛門など三島の有力者に大きな影響を与えた。



■リゼー・バラ女史

キリスト教主義の薔花（バラ）女学校の校長として女子教育に力をそそぐ。ジェームス・バラ博士の従姉妹。



■小出市兵衛

兵右衛門の義弟。バラ博士と親交を深め、明治16年、三島教会設立と共に一家あげて信徒となる。これを契機に三島にキリスト教が根づいていく。



■「聖書唱歌」

大正6年、大阪日曜世界社発行の賛美歌集。

花島兵右衛門年譜

和 暦	西 暦	事 項	文 献
弘化 8	1846	11月5日、花島知栄の長男として三島宿竹林寺小路(三島市中央町3丁目29)に生まれる。知春、後に兵右衛門。	市誌中
文久 3	1863	幼少の頃、相州小田原の呉服商辻村家にて商業を見習う。	市誌中 童 話
明治12	1879	葦山代官江川坦庵が創設した農兵訓練の時、青年小隊長として三島陣屋(現三島市役所)に馬に乗って出る。	市誌中
15	1882	父知栄、死去。家業の酒造業を継ぐ。	市誌中
16	1883	10月、三島町会議員に選ばれる。この後町会議員、郡会議員、所得税調査委員、相続税審査員等の公職を歴任する。中年以後は政治から退く。	市誌中
18	1885	吉原呼我を助けて、私立学校中権精舎(田町)を創立し、郷土の中等教育を援助する。	市誌中
19	1886	11月21日、三島教会奥野昌綱牧師から洗礼を受け、一家7人キリスト教徒となる。	市誌中
21	1888	この後、家業の酒造業を廃し、酒倉を改築、西洋風の教会堂とし、三島教会の礼拝堂に用いられる。	童話他
22	1889	6月、酒倉の教会堂2階を利用して、キリスト教主義のバラ女学校を設立、校主となり、女子教育の普及に努める。 (県下の女学校の草分け。明治25年7月2日、経営困難のため廃校となる。)	三島雑記
24	1891	7月、「豊牧舎」二日町に20頭の乳牛を擁し、牛乳販売所を開く。(北は北上村から南は古奈村まで出荷)	雑 記
26	1893	この後練乳(コンデンスミルク)製法の研究を始める。	市誌中
27	1894	「花島練乳場」を創業し、練乳製造を開始する。	雑 記
28	1895	1月、天然痘が流行し、内務省の依頼に応じ、自己の牧場で痘苗を製造、提供する。6月、種痘の功により大日本私立衛生会より感謝状を受ける。	市誌下 雑 記
29	1896	4月6日、東京で開催された大日本畜産品評会に練乳を出品し優等賞を授けられる。	雑 記
31	1898	10月、株式会社三島銀行を創立、大正11年まで頭取として在職	市誌中
		第4回内国勲業博覧会で有功二等賞を獲得。「金鶏印練乳」の名が全国に知られるようになる。(商標「金鶏ミルク」)	市誌下 雑 記
		この頃、小笠原に飼育するイタリ一種蜜蜂を輸入し、養蜂を行なう。全国より、蜜蜂の需要多い。	雑 記
		米国から真空鍋を購入、研究を重ね、養子轍吉と協力して新式練乳製法に成功する。	市誌中
		葦山の鎮正美に「豊牧舎」の畜牛を譲渡する。	市誌中 下
		(鎮は、明治26年畜産搾乳の事業を葦山に起こす。この後、牛乳の蒸気による殺菌方法を研究、ホルスタイン種購入による良種の増殖、新種牧草の導入等、畜産事業に努める)	花 島 教会史
		2月8日、伊豆鉄道株式会社設立の請願を出す。	市誌中
		旧酒倉の教会・バラ女学校を再び改造し、練乳工場とする。	市誌中
		轍吉を米国に派遣し、純粋ホルスタイン種有籍牛20頭を輸入し優良種の改良畜産に努める。(日本の輸入種牛育種の初め)	市誌中
		この年、轍吉急死。このため次男信一を葦山中学より退学させ練乳製造にあたらせる。	市誌中
		(信一により、花島練乳製造工程の特許を得、全国一の製品として海軍御用となり、海外へも輸出される。)	市誌下
		伊豆鉄道株式会社を発起創立。5月20日、豆相鉄道(後に伊豆鉄道)が開通(三島田町-葦山南条間)	市誌下
		(明治44年、駿豆電気鉄道に譲渡される)	市誌中
34	1901	長男津田守三(津田家の養子となる)、親戚仁田大八郎と共同で才塚(三島市東町、南二日町)に三島種牛場を設け、畜牛の改良を行う。	市誌中
36	1903	伊豆の牛種改良、畜産の奨励に努めるため、田方郡産牛組合を創立。	市誌下
37	1904	賀茂郡産牛組合を創設。	市誌下
42	1909	4月3日、三島教会芝町教会堂(現在芝本町東京海上ビル)が献堂される。	教会史
		この時、土地及び多額の資金を寄付する。	市誌中
43	1910	静岡出獄人保護事業勸善会の常議員を嘱託され、終生幹事の任を果たす。	市誌中
45	1912	北海道よりシェルシン・ホルスタイン種牝牛を購入	市誌下
		5月、農業発達に資せる功勞により、大日本農会総会貞愛殿下から紅白有功賞を授与される。	市誌中

和 暦	西 暦	事 項	文 献
大正 4	1915	ホルスタイン種牝牛を購入	市誌中
5	1916	11月1日、畜産の発達及び練乳の製造に対する功勞により、緑綬褒賞を下賜される。	市誌中
6	1917	花島練乳場と札幌練乳場が主体となって、三井物産(株)の資本により「極東練乳株式会社」を起し、工場を才塚に移す。(現在、南二日町市宮アパート)「金鷄ミルク」「金線ミルク」のほか、バター・アイスクリーム等の製造も行う。「極東アイスクリーム」は毎日東京三越食堂を賑わした。	明治史
10	1921	11月、事業の中心であった次男信一、死去。 四男周一を工場長として事業を継がせる。 (周一は、北大卒業後、シカゴ大学で酪農学を学び帰国していた。この後、優良牧草の輸入や、自給栽培普及等、畜産界に貢献する。昭和16年、初代三島市長となる。)	市誌中
昭和 2	1927	多年練乳業に従事し刻苦精励、この業の発展に資した功績により大日本産業協会総裁博恭王殿下から表彰される。	市誌中
3	1928	11月16日、昭和天皇即位の大礼の大饗の儀に召され、同時に天盃を下賜される。	市誌中
4	1929	4月12日、自宅で死去。(83歳)	市誌中
9	1934	4月1日、極東練乳三島工場と森永練乳三島工場が合併、昭和練乳株式会社が創立される。花島家、練乳事業より離れる。後に社名を森永三島練乳株式会社と改称(昭和11年)。	市誌下 森永史

その他 関係年表

明治 8	1875	プロテスタント(新教)教会宣教師ジェームス・バラ博士、三嶋大社前で路傍説教を行う。この時、竹林寺小路の小出市兵衛がバラ博士をかくまう。(明治の三島におけるキリスト教布教の初め)	童 話
15	1882	8月17日、プロテスタント信徒伊藤氏他5～6名が三嶋大社鳥居前で説教を行なったところ、石を投げられるなどの大騒動となる。	沼津新聞
16	1883	1月4日、バラ博士等により、三島教会が設立され、市兵衛一家信徒となる。(花島兵右衛門の義弟)	童話他
大正 7	1918	5月4日、日本練乳株式会社(森永製菓の子会社)錦田村(現三島市)に工場を設け、原料用練乳とバターの製造に当る。	市誌下 森永史
9	1920	日本練乳、親会社森永製菓に吸収され、畜産部(後の練乳部)となる。この年の末、錦田工場にて粉ミルク製造に着手(日本の粉ミルク製造の最初)	市誌下 森永史
昭和 2	1927	森永製菓練乳部が独立し、森永練乳株式会社となり、錦田工場は同社三島工場となる。	市誌下
8	1933	世界的不況の影響を受け、森永練乳・大日本練乳・極東練乳・明治製菓が国産練乳協同販売組合(カルテル)を作る。	市誌下

■ 出品協力者 花島信之氏

■ 年譜参考文献ガイド

- 市誌中…三島市誌 中巻(昭和34年)
- 市誌下…三島市誌 下巻(昭和34年)
- 童 話…童話から童話へ(小出正吾著、昭和55年)
- 教会史…三島教会百年史(昭和60年)
- 森永史…森永五十五年史(昭和29年)
- 明治史…明治乳業50年史(昭和44年)
- 雑 記…三島雑記(明治29年)
- 花 島…花島家文書
- 沼津新聞(明治15年)

企画展

ふるさとの人物

花島兵右衛門

■ 入場無料

■ 平成3年3月24日～5月26日

■ 三島市郷土館(楽寿園内)

〒411 三島市一番町19-3 TEL 0559(71)8228